

SUMMER 2010 AMAKUSA STUDENT DELEGATION ITINERARY

Friday, July 23
2:30 - 3:00pm Delegation arrives at City Hall
Meet host families
Host families take home

7月23日(金)
 午後2:30 - 3時 訪問団エンシニタス市役所到着
 ホストファミリーと対面
 ホストファミリー宅へ

Saturday, July 24
Free day with host families

7月24日(土)
 ホストファミリーと過ごす

Sunday, July 25
Free day with host families

7月25日(日)
 ホストファミリーと過ごす

Monday, July 26
9am - Host families drop off at City Hall
Hike Torrey Pines State Beach (casual dress for hiking)
12pm - lunch (Kialani's Hawaiian food)
Beach Day at MLB (bathing suit)
Surf lessons
3-5pm Welcome BBQ at MLB (bathing suits ok)
Meet Mayor
Host families take home

7月26日(月)
 午前9時 ホストファミリーと市役所へ
 ハイキング(トーレパインビーチ)
 午後12時 昼食(Kialani's Hawaiian food)
 ムーンライトビーチで過ごす
 サーフレッスン
 午後3-5時 ムーンライトビーチでバーベキュー
 市長と対面
 ホストファミリー宅へ

Tuesday, July 27
9am - Host families drop off at City Hall
Tour of City (casual dress)
San Elijo Lagoon walk/tour
Swami's gardens tour
12pm - lunch (Rico's Mexican food)
1-2pm Japanese theme at library
YMCA Skate Park tour
Visit Lou's Records and the Pannikin Coffee shop
5pm - return to City Hall
Host families take home

7月27日(火)
 9時 ホストファミリーと市役所へ
 市内探訪(普段着)
 San Elijo Lagoonへ
 Swami's gardensへ
 12時 ランチ
 午後1-2時図書館へ
 YMCAStateParkへ
 Lou's Recordsとthe Pannikin Coffee shopへ
 5時 市役所へ
 ホストファミリー宅へ

Wednesday, July 28
9am - Host families drop off at City Hall
9:39am - Depart on train for downtown San Diego (casual dress)
Tour of downtown San Diego
12pm - lunch (Hardrock Cafe)
Ferry to Coronado Island
Visit Seaport Village
5:33pm - return to City Hall
6-8pm - Good-bye BBQ at the former Fire Chief's house (casual dress and bathing suit for pool)
Host families take home

7月28日(水)
 9時 ホストファミリーが市役所へ
 9時39分 San Diegoへ 電車で移動
 San Diegoへ
 12時 ランチ(ハードロックカフェ)
 フェリーでCoronado Islandへ
 シーポートビレッジへ
 午後5時33分 市役所へ帰る
 6-8時 お別れバーベキュー
 ホストファミリー宅へ

Thursday, July 29
9am - Host families drop off at City Hall
Delegation leaves for Los Angeles
Optional: Padres Game Tues. (28th) 7:05pm start time

7月29日(木)
 午前9時 ホストファミリーに市役所へ送ってもらう
 訪問団ロスへ向け出発
 オプション:パドレス野球観戦 28日午後7時5分スタート

『アメリカ エンシニタス』

天草市立牛深中学校 二年 浦田 晴佳



「日本にないおいしいものを食べたい！特に大きなお肉が食べてみたい。」これが私のアメリカへ行きたい理由でした。皆がその理由では、絶対落ちるよと言われるような事でしたが、私は真剣でした。面接のときも面接官の人たちに笑われ、絶対落ちたと思っていたので、選ばれた時は本当にびっくりしました。そして絶対お肉を食べてやる！と思いました。

国際便の飛行機は10時間くらい乗りました。電子辞書を開いて挨拶でも覚えようと思いましたが、ワクワクしすぎて全く暗記できませんでした。そんなことに焦り始めた頃「もうすぐアメリカに着きます」とアナウンスが流れました。外を飛行機の窓から見ると高い茶色の山がたくさん連なっていて、日本とは全く違った山の景色がありました。「あーアメリカだ〜」と実感した瞬間です。

国際線の飛行機から降り、空港に降りた私たちを待っていたのは、入国審査でした。サングラスをかけ、スキンヘッド姿の警備員がたくさん立っており、雰囲気は圧倒され、これがアメリカか！！と恐怖感も感じました。パスポートを片手に私達はガチガチになりながら入国審査官の所へいきました。まわりは皆外国人です。私の審査官は背の高い女の人でした。パスポートを見せ、ハンコを打ってもらいましたが、そのハンコを押す音が響き、怖かったです。そんな音を聞きながら私は本当にアメリカに来たんだという実感がジワジワきました。空港をでてアメリカの地に立ってみると、道路が広く、車のスピードが日本とは全く違い、まるで映画を見ているような気分になりました。映画みたいだ！！それが私のアメリカの第一印象です。

車で市役所まで移動し、いよいよホストファミリーと対面です。どんな人だろうとドキドキしました。まったく日本語がしゃべれないと書いてあったので少し心配もありました。

最初に「URATA」と呼ばれて振り向くとサングラスが似合うおじさんとおばさんが立っていました！この二人が私のホストファミリーでした。名前はジョンさんとパオラさんです。簡単な挨拶をしてさっそく家に向かいました。

ドアを開けるとローリという女の子の人がいました。いとこだそうでイタリアから留学中だそうでした。ローリの第一印象は明るい！です。声も大きいし、背も高い。いかにもイタリアの陽気さが感じられる人でした。人数オーバーで車に乗れないので、家で待っていたそうです。ローリには「hello」とだけいい、また車に乗りました。ローリはまた留守番です。5分くらい走るとビーチが見えてきました。何をしに行くのかなと思っていると、なんと娘ガブリエラのサマーキャンプの迎えでした。夏休み期間中は「サマーキャンプ」という体験学習がたくさんあるそうで、ガブリエラはその中の1つ、海の体験学習を選んで、活動中だそうです。そこで、最後のホストファミリー、ガブリエラを乗せて家に戻りました。

家に入ると「何がしたい？」とジョンさんが早速聞いてきました。私は何をすればいいかわからなかったのでとりあえず「座りたい」といいました。座ってからもう1度「何がしたい？」と聞いてきました。考えているとガブリエラが「wiiしようよ」と言ったのでwiiになりました。アメリカにも日本のゲームがあると知って日本のレベルの高さに驚きました。操作の仕方ソフトも日本とまったく同じでした。ただ1つ違うのはゲームの音声案内が英語なだけです。

Mii（プロフィールの事です）を作る時、ニックネームを入力するところで「haruka」と入れると、パオラさんが「えっ?!ニックネーム名字？」と聞いてきました。私も何の事?と思ったのですが、最初に会った時から今までずっと「urata」と呼ばれていることに気づき、「urata」が名前と勘違いしていることに気がきました。私は「それは名字だよ」と言うとホストファミリーみんなが「sorry」といつてきて、それからみんなは「haruka」と呼ぶようになりました。ですがどうしても「ふるが」と発音してしまっているので結局、私の呼び名は「haru」になりました。そんなプチ騒動もあり、wiiはとても盛り上がりました!ガブリエラも「私のことは『ガビ』と呼んで」と言ったので、私も「ガビ」と呼んでいました。

Wiiゲームは、負けてばかりだったのですが、みんなが結果発表のたびに「GOOD JOB」と言ってくれ、アメリカ人はほめ上手だと感心しました。そして、どんどんガビとの差が縮まっていき結果、勝つことができました。私はほめられて伸びるタイプっぼいです。

ガビは11歳なのですが私より背が高く、足が長かったです。THEアメリカンという感じでした。また、私が何と言っているか分からない時は、ゆっくり繰り返して言ってくれました。とても助かりました。

最初の夜は、DVDを見ました。英語だったのですが、私も日本で見たことがあったのでわかりました。夜になって気がついたのですが、アメリカは日本のように天井の中心に大きな照明があるのではなく、小さなランプが2つだけで、間接照明になっていました。どこの家もそのような照明だということでした。ちょっと暗く感じたので、目が悪くならないのか疑問に思いました。また廊下も電気がなく真っ暗だったので、壁にぶつかりました・・・。

私のホストファミリーは日本食のファンのように、棚には味噌汁や海苔がたくさんありました。ホストファミリーー押しの手巻きずしは、醤油がドロドロしており、醤油というよりとんかつソースの味がしました。具も日本ではまだ珍しいアボカドやシーフードがはさんである、カリフォルニアロールでした。おいしかったです。

私のアメリカの目的は「食」を堪能することです。

私のホストファミリーは、そのことを知っていて、次々にいろいろな珍しい料理を食べさせてくれました。最初にアメリカに来て食べた料理はメキシコ料理です。夕食に連れて行ってもらいました。まずここで大きさにビックリしました。私がつたのんだものはタコスです。日本の2倍以上のタコスが2個と大量の野菜があり、これを食べるの？とびっくりしました。周りを見渡すと小さな子供も食べていて、なんて胃袋が大きいのだろうと驚きました。また、食べていると店の中でバイオリンを弾く人が入って来て演奏していました。アメリカ人は、こんなににぎやかに食べるのかとまたびっくりしました。演奏を聴いていると、突然プリンと共にバイオリンを弾く人達がやってきました。そして突然私に向かってハッピーバースデートゥーユーと歌いだしました。私は少しパニックになりました。その日は私の誕生日ではありません！後で聞くとジョークと言われました。

ホッとしましたがアメリカの人ってこんなジョークを言うのか、とジョークが大きい事にアメリカのすごさを感じました。

プリンは甘すぎたのでガビにあげました。

朝はホットケーキを食べに行きました。朝から外食をすることは普通らしく朝にも関わらずお店は人でいっぱいでした。日本では2枚分ぐらいの大きさがアメリカでは1枚でした。そんな大きさのホットケーキが2枚とたくさんのフルーツが出てきて結局食べきれませんでした。ブルーベリージャムはつけても味がなく「えっ？」と思いました。みんな蜂蜜をたっぷりつけていたので、私も真似をして、たくさんつけると甘すぎました・・・。

この日の夜はステーキを食べに行きました。お肉を食べたいと言ったら連れて行ってくれました。半生だったのでレアだ！と思いました。ご飯にマッシュポテト、野菜がつきとてもボリュームがすごかったです。お皿からソースがこぼれていたのが少し残念でしたが、アメリカでは普通のようなです。でもお肉がやわらかくておいしかったです。

次の日はパスタとピザを食べました。日本よりトマト本来の味がでており、トマト嫌いの私にとっては挑戦状でした。しかしピザは私もおいしいと思いました。具がいっぱいのっていて落ちそうでした。やっぱりサイズは大きいです。1枚でお腹がいっぱいになりました。

次の日はハワイアンフードを食べに行きました。どんな料理なのか想像がつかなかったのですごく楽しみでした。そして、いざ出てきたら、私の予想とは違っていました。

マカロニサラダとご飯に肉でした。そしてフォークではなく、箸が置いてあり、箸を使って食べました。味が薄く、脂がすごかったです。ごはんはパサパサしていました。

ハードロックカフェにも行きました。店に入るなりギターやサインがいっぱいで見ているだけで楽しめるカフェでした。定員さんがストローとお水を持ってきました。ストローを配る時、投げて配っていました。私は唖然としました。日本では、絶対許されない事だと思ったからです。でも、それが普通に行われているということは、アメリカではマナーが悪い事ではないのかもしれませんが。

そして、周りの人達と同じようにストローで、料理がくるまでの間遊びました。ストローの封を少しちぎって、ストローに息を吹きかけて封をとばす遊びです。日本ではマナーが悪いことでも、アメリカでは誰も叱る人はいないし、普通の事のようなので、文化の違いに驚きました。お水にはレモンがさしてあり、レモン水でした。ここでは私は、サンドイッチを頼みました。ハニー味の野菜サンドです。アボガドがたくさん入っていてうれしかったです。

またバーベキューは、2回経験しました。1回目はホストファミリーとガビの家族とのバーベキューです。日本では肉や野菜を焼いてたべます。でも向こうでは、ウインナーを焼いただけで、パンにはさみ、ホットドックにして食べていました。ウインナーを焼いている間ガビの友達達とかくれんぼをしました。日本とルールは同じで、とっても楽しかったです。喉が渴いたらレモネードを飲みました。初めて飲んだのですがいい感じに甘くておいしかったです。そして少しお腹がすいたらつまみ食いです。普通に友達もつまみ食いをしていて、日本だったら「これ食べていい？」とか聞かろうなと思いました。食後はおやつで、マシュマロを棒の先につけ火で少し焼いてクラッカーにチョコとはさみ食べました。

2回目のバーベキューは今回の研修の関係者の方々としました。そのとき、エンシニタス市の市長さんにも会いました。普通のシャツに短パンというなんともラフな格好でした。紹介されるまでは、まさか市長さんとは思いません、とても市民に溶け込んでおられました。市長さんもいて、火を使うので消防車もきており、その消防車に乗ることができました。日本の消防車より大きく、中は服やホースでごちゃごちゃしていたので、もっと綺麗にすればいいのにと思いました。ヘルメットを被ることができました。重かったです。そして消防士の方にも会いました。190cm位のとても背の高い人です。一緒に写真を撮ってもらいました。それから日本語のうまいゾーイと話しました。みずきちゃんのホストファミリーです。日本語を習っているようで、漢字も読み書きできるレベルです。

授業では、日本の番組を見ているようでゾーイの部屋には、嵐のポスターが天井までびっしり貼ってあるそうです。海外でも人気の嵐はすごいです。ゾーイはダジャレが好きだったので、ダジャレの話で盛り上がりました。またテンションが上がった時などに使う「シャカブラ」という言葉も教えてくれました。日本語では「イエーイ」みたいな感じです。人差し指と中指、薬指を曲げるポーズと一緒に言います。

この日は夜、少し時間があつたのでスーパーに行きました。野菜が袋づめにされておらず、かごにいっぱい積まれて並べてありました。とってもエコだと思いました。レジはベルトコンベアーが付いていて、買うものを乗せると動きだします。あまりレジ袋を使う人はおらず、マイバックを持ってきていました。そこで気づいたのは店員さんと仲良しということです。どの列のレジでもちょっとした立ち話をされていて、とてもみんな仲良しに見えました。

最後の夜は野球を見に行きました。日本の野球を生で見たことがないので日本のことはわかりませんが、アメリカの応援の団結力はすごかったです。応援しているチームが点をいれると叫んだり、踊ったり……。みんなすごいテンションの高さです。私たちは、お菓子などいろいろ食べながら観戦しました。右手に応援グッズ、左手にお菓子をもって後半は、私も椅子の上に立って応援しました。試合後は、ピーナッツの殻や落としたポップコーン、ゴミをおいて帰りました。私はちょっと戸惑いましたが、皆と同じようにしました。アメリカでは普通のことらしく、どの席もゴミであふれていました。

ロサンゼルスに行くために電車に乗りました。この電車は初めて見ましたが、音は毎日聞いていました。というのも家が電車の通る道の近くで、毎日夜12時半、朝6時にとっても大きな音を立てながら通るので寝起きの悪い私でも、目覚ましがいらぬ程でした。そんな目覚まし代わりに馴染みのある電車は、二階建てで、私たちはもちろん2階に乗りました。とても景色がよかったです。

文化についてですが、タトゥーをしている人が多かったです。ほとんどの人が腕とか足とか目立つところにデカデカと彫っていました。中には漢字で「勇士」と彫っている人もいました。日本語ブームだそうです。またアメリカ人というと、金髪というイメージがあつたのですが、実際は茶髪が多く、金髪の方はほぼ染めているらしいです。

そして食事に関しては、アメリカでは外食が普通のようなのでした。朝も2日しか家では食べず、朝も昼も、もちろん夜も外食でした。

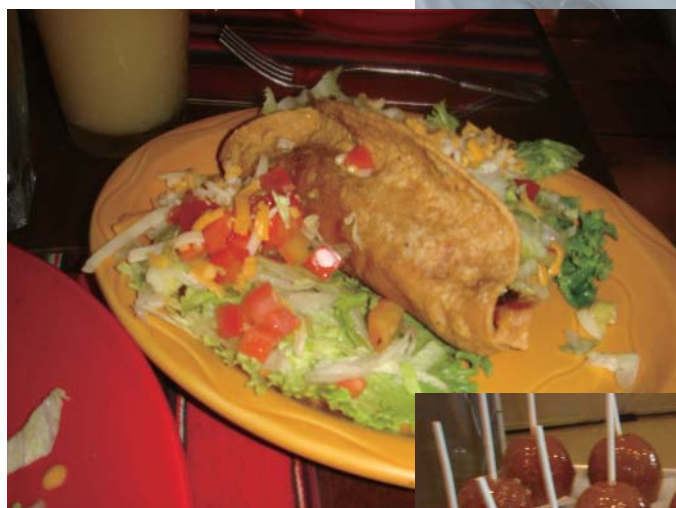
今回の研修では、ディズニーランドやユニバーサルスタジオにも行くことができ、とても楽しい経験をさせてもらいました。

アメリカでは、毎日が驚きと、初めてという体験をたくさんする事ができました。本当は、英語で話せたらなという思いが強くありますが、実生活の中ではジェスチャーや単語でも充分通じ合えたと思います。

今回私の体験したアメリカを、牛深中学校をはじめ、いろいろな人に知ってもらいたいと思います。そしてホストファミリーの人たちとEメールなどを通じて交流していきたいと思っています。そして市長さんが帰国報告会でおしゃっていた姉妹都市の目的の、お互いを理解し合うことにより戦争を起こさないようにするという事を私は、今実感することができています。派遣生として行った私達は平和の使者として何か活動しなければということを考えています。

最後に今回はいろいろな方々にお世話になりました。天草市長様はじめ教育委員会の皆様、英語の先生方など、いろいろな方のおかげで研修させていただくことができました。

本当にありがとうございました。



『My Best Memory』

天草市立本渡東中学校 三年 金子 大輝



今回のエンシニタスへのホームステイは、僕にとってとても大きな出来事となりました。人生観を大きく変え、これからの僕の人生を大きく変えたと言っても過言ではないほどに良い体験をすることができました。世界の広さを知り、何より人の温かさを知ることができました。僕は今回のホームステイに行けたことにとても感謝しています。そして、このホームステイに関わっていただいた方すべてに感謝します。

事前に用意した慣れないスーツケースを引っ張りながら、不安と期待で胸を膨らませながら家を出ました。集合場所の天草空港で出発式があり、みんなに手を振りながら飛行機に乗り込みました。僕はコミュニケーションをとるのが苦手です。その上、男子一人ということもあり、最初は一人離れていたけど、時間がたつにつれて徐々に打ち解けていくことができました。そして、初めての国際線へ乗りました。自分のパスポートを持ち、出国審査を受けるのはとても緊張しました。国際線の機内は、周りを見渡しても外国人ばかり、使われるのも英語ばかり、はじめての長時間のフライトというのもありとても疲れました。機内では、乗務員からもちろん英語で話しかけられるため、曖昧としていたアメリカの実感が、徐々にわいてきました。そして、今までずっと窓から見える景色は海だったのに、だんだんと陸地が見えてきて、ついにビルが立ち並ぶ街へと変わっていきました。空港の滑走路に飛行機のタイヤがついて、ドンと衝撃が着た瞬間、「本当にアメリカに来たんだ!!」と急に実感がわいてきました。そして、空港を出て初めてアメリカを生で見ました。見るものすべてが新鮮で、とても興奮しました。そこから車でエンシニタスへ向かっている途中、横を走る車を見ていると日本製の車が何台も走っていて、こういうところでも日本との関わりがあるんだなと、考えたりしていました。エンシニタスの市役所に着き、そこには「Welcome to Encinitas」のプレートを持った大勢のホストファミリーが迎えてくれました。そこで、みんなで集合写真を撮りました。

僕のホストファミリーは stahmer という家族でした。家族構成は父、母、子どもの3人家族で、息子の Sage は僕と同級生の15歳でした。みんな優しく、おもしろく、僕を温かく迎えてくれました。そんなホストと車で市役所から家へ向かっている途中に、助手席に座り緊張している僕を見て、お父さんが「Can you speak English?」と話しかけてくれました。僕は一言「No」と答えると、「OK, no

problem」と、笑って返してくれました。おかげで緊張もほぐれてきました。こうして僕のホームステイが始まりました。

思い出に残った出来事

ディズニーランド（3日目）。朝6時に起きて、ディズニーランドへ向かいました。ディズニーランドではたくさんのアトラクションに乗りました。ジェットコースターに乗ったり、びしょ濡れになったりと、朝早くに来て、夕方頃まで遊びました。僕は日本のディズニーランドにも行ったことがあるけど、アメリカのディズニーランドと結構似ていました。ただ、言葉が違うだけで後は違和感がなかったです。こういうのは、やはり一緒なのが分かりました。だけど、ものすごく楽しかったです。

ビーチ（4日目）。他の日本のメンバーとそのホストと、みんなで海へ行きました。海ではもちろん泳いだり、サーフィンをしたりしました。サーフィンは難しかったけど、なんとか数秒は波に乗ることができました。貴重な体験をすることができてとてもうれしかったです。泳いだ後はバーベキューをしました。バーベキューは日本とはやり方が全然違っていました。日本のように肉を焼いていくのではなく、ハンバーガーとウィンナーだけを焼き、あとはセルフで、ハンバーガーとホットドックを作るというものでした。あとは、ポテトサラダとお菓子があるくらいで、アメリカだからステーキでも焼くんだろうなと思っていたので、これには驚きました。食べた後には、市長さんからプレゼントを貰い、みんなと長い時間雑談をしたりして楽しかったです。

スーパー（6日目）。僕は今回のホームステイで必ずスーパーに行く決めていました。テレビで見るアメリカの食べ物は、大きく量も多くて、それが揃うスーパーをどうしても見てみたかったからです。最後の夜に連れて行ってもらいましたが、想像以上の凄さでした。なにより、大きくてビックリしました。みたことない大きさのポテトチップスの袋や、灯油を入れる様な容器に入った牛乳、絶対に食べきれないようなアイスがずらりと並んでいて、興奮しました。それらを見て、一人で興奮して叫んでいました。ここで、アメリカはスケールが違うのを再確認しました。

別れ（6日目）。これも最後の夜のことでした。この夜のことを僕は決して忘れません。僕は、ホストファミリーから何枚かの地図を貰いました。その地図は、エンシニタス市の地図でした。すると、その地図をホストが一枚ずつ広げて、この家の場所に印をつけていくのです。全部の地図に印をつけ終わると、僕に「ここがお前の家だ。いつでも帰ってこいよ」と言ってくれたのです。僕は嬉しくてたまりませんでした。僕はこの言葉がいまでも耳に残っています。僕の一番の思い出です。

日本との違いを感じたこと

○食べ物の大きさと量

僕が一番日本との違いを感じ驚いたことでした。これを感じたのは、初めてお店に食べに行った時でした。僕はその時ハンバーガーとコーラを注文しました。すると、日本ではLサイズのコーラと、いつも食べるハンバーガーの2倍位の大きさがあるよ

うなハンバーガーが来ました。更にハンバーガーには、大量のポテトもついていて、驚きました。更に驚いたのは、アメリカ人はそれを普通に食べてしまうことです。けど、味はとても美味しかったです。そして、もうひとつは食料品です。家にいるとき「お腹空いた？」と聞かれた時がありました。軽い気持ちで「Yes」と答えると、棚から大量のお菓子が出てきてきました。ひとつひとつの量が異常に多くて、箱買いしてあつたり多くの種類が買い置きしてあつて、スケールの違いを感じ、やっぱりアメリカ人は凄いなと思いました。

○ 言葉の違い

アメリカには敬語というものがありませんでした。これは、Sage と話した直後に、大人と話して気付きました。誰と話すのも全部同じで、日本とはおおきく違うところで、なんとなく変な感じがしました。

○ 道の大きさ

アメリカは土地が広いせいか、道が広がったです。国道や高速道路では3車線位は当たり前で、多いところはもっと車線が多かったです。そして中道ぐらいが日本の国道と同じくらいでした。しかし、アメリカでは道が大きいのか、道の端に車が多く停まっていた。土地が広いアメリカだからこそ出来るんだなと、驚きました。

○ 家の違い

アメリカは根本的に家の造りが違っていました。まず、家にも靴ではいると知っていたけど驚きました。靴を脱ぐ必要がないのでドアを開けると、すぐにリビングでした。更に、日本のように仕切りがなく、空間と空間がつながっていてとても開放的な作りとなっていました。

○ アメリカ人のおおらかさ

アメリカ人は初対面でも、優しくフレンドリーに接してくれました。初めて市長さんと会ったのは、僕たちは海からあがったばかりの時でした。それは、全然市長さんとは思えないアロハシャツの登場で、最初「誰？」とってしまうほどでした。後から聞くと仕事の合間に来ていただいて、わざわざ僕たちを緊張させないようにとスーツから着替えていただいていたのでした。そういう細かいところまで気遣ってもらってとても温かいなと感じました。

○ アメリカ人の大雑把なところ

そして、おおらかさとは逆に大雑把だなと思うこともありました。たとえば、受け取ったおつりを財布に入れずに、そのままズボンのポケットに入れたり、財布に挟むだけなど大雑把でした。なので、おつりで貰う紙幣はいつもクシャクシャでした。

○ サービスの違い

これは、ある店にご飯を食べに行った時でした。店員が注文を受けストローを持ってくると、なんと配るのではなく、わしづかみにした大量のストローを放り投げたのです。面白いと思ってやったのでしょうか、とても衝撃的でした。それに、レジの人は無愛想で、むしろ睨まれてるんじゃないかと思うほどの顔つきで接客されました。更に、紙幣を出した後慣れない硬貨なので、もたつきながら小銭を出そうとしている

にも関わらず、さっさと紙幣だけで済ませてしまうのです。そういうところでは日本はとてもサービスが良いんだなと実感しました。

このように今回のホームステイで、日本とアメリカの違いを学ぶことができました。話に聞くのと、実際に体験するのは全然違っていました。アメリカと日本、似ているようで全然違う国でしたが、そういう国のことを知れて、とても良い体験となりました。

最後の別れの時が来ました。自分のホストだけではなく、みんなと仲良くなり別れるのがとても辛かったです。何とも思っていなかったのに、いざその時になってみると、涙があふれ出してきました。だけど、みんな最後まで笑って送り出してくれました。最後に、最初と同じ場所で集合写真を撮りました。最初に撮った写真では無表情の棒立ちだったけど、最後には笑顔でポーズもとって写ることができ、少なくとも成長を感じることができました。その後、ロサンゼルスで一泊して、行きと同じ長い空路を経て日本に帰ってきました。その日は福岡で一泊して、次の日の朝、無事天草に帰ってきました。これで、ぼくの短いようで長いホームステイは終わりました。

今回のプログラムの日数は全部で10日間、ホテルや機内泊を除くと、実際にホストの家に泊まるのは6日間という、とても短い期間でした。僕が、このホームステイで課題としていたことが文化の違いを知ることと、自分の英語力を試す事。そして、コミュニケーション能力の向上。文化の違いは、たくさんの体験で身をもって知ることができました。次に、英語力を試す事。短い間でしたが、自分の力を出し切り、そして力をつけることができたと思います。初めはわからずに、不甲斐ない思いをしたけど、日が経つに連れどんどんわかるようになり、最後にはほとんどが分かるようになっていました。そして、一番の課題としていたのは、コミュニケーション能力の向上でした。これは、自分でも確実に向上したと思います。知らない土地で、しかも英語を使って接するというのがとても刺激になったと思います。人とだいぶ話せる事ができるようになりました。初めのうちは言葉も通じずに、黙っていて心配をかけてしまいましたが、言えば、相手も答えてくれるというのが分かり、かなり話せるようになっていました。これらのことは、たくさんの人へ伝えて、周りの人や、これからの天草に役立てていきたいと思っています。なにより、僕は今回のホームステイで自分自身が成長することができました。この成長を次へつなげて、さらに成長できるように頑張りたいと思っています。そして、僕の目標は、英語が話せるようになってからアメリカへ行き、恩返しをすることです。その為にも、しっかりと今回のことを生かしていきたいと思っています。

『天草市姉妹都市教育交流事業を終えて』

天草市立天草中学校 三年 鬼海 伽美



私がこの姉妹都市の交流授業に参加した理由は、2つあります。

1つ目は私の将来の夢が英語の先生になることだからです。

夢を叶えられるように頑張りたいと思い姉妹都市の交流授業に参加してみました。

2つ目は私の父が中学生のときアメリカへ行った事があり、その時のことを聞き、私も行ってみたいと思ったからです。自分の英語力を試してみたいと思っていました。

長い飛行機を乗り終え、みんなでわくわくしながらアメリカのロサンゼルス空港に着きました。まわりに私たち以外に日本人はいなくて、本当にアメリカに着いたんだと初めて実感しました。

ロサンゼルス空港についてから、トイレにみんなで行きました。すると、トイレのドアの下が、5分の1くらい開いていてびっくりしました。みんなで、トイレの写真を何枚も撮りました。私は、「どうして開いてるのかな」と思いました。しかも、アメリカのトイレはウォシュレットがありませんでした。だから私は、日本のトイレの方がいいなと思いました。

それから車で少し走り、カリフォルニア州にあるエンシニタス市の市役所に着きました。

そこには、たくさんの人がいてwelcomeボードで私たちを迎えてくれました。あまりにびっくりしてとても緊張しました。

私のホストファミリーはジャミラと言う方で私を笑顔で迎えてくれました。最初は、おどおどしてどう向き合えばいいのかわかりませんでした。でも、石橋先生がそっと肩をおしてくれたので、面と向かってあいさつをする事が出来ました。すると、ジャミラは日本語で「はじめまして、かみ」と言ってくれました。

そして、各ホームステイ先にみんなわかれしました。3日間みんなに会えないと思うと、少し不安がありました。

ジャミラの家まで車でいきました。乗ってみると少し違和感があったので、日本の車とくらべてみると、運転席と助手席が反対になっている事に気づきました。それと、アメリカは右車線を走っていて、日本と逆だなと思いました。

ホームステイ先のお家につくと、ジャミラのお父さんとお母さんとジャミラの双子の妹、ソラナとマリアに会いました。話しかけられたのに、あまりの英語のスピードの速さについていけず、よくわかりませんでした。そこで、ジャミラが日本語で少し教えてくれました。その後、ジャミラとソラナとマリアと一緒にエンシニタス市を歩いてまわりました。3人が、よくエンシニタスの事や、私について質問してくれたので、楽しかったです。「かみの夢は何？」と聞かれ「English teacher」と答えると「素敵な夢ね」と言い4人で、自分の夢について話しました。そして家に帰りました。

家について、私は日本から持ってきたお土産をホストファミリーにプレゼントしました。

浴衣と日本のお菓子、扇子、プレスレットをあげると、とても喜んでくれました。

友達や家族の写真を見せると「かみの周りは、素敵な人たちがたくさんいますね。」と言ってくれました。また、このホームステイのために、学校の先生と一緒に天草の事や、学校の事、家族の事について英文を書きました。それを見せると、ジャミラは天草に来たことがあったので、「わたしも知っています。」と、そこから少し英語で話しかけることができました。夜は映画館へ行きました。映画ではかわいいキャラクターが出てきたけれども、全部英語だったのでよくわかりませんでした。まわりの人たちはみんな笑っていて、何で笑っているんだろうと思いました。

夜ご飯は、ハンバーガーを食べました。私の父が「アメリカのハンバーガーは、大きい」と、言っていたので本当かなと思いハンバーガーを買いました。するとお父さんが言った通り、本当に大きくてびっくりしました。ハンバーガーだけでなく、ジュースもアメリカのSサイズが日本のMサイズで、とてもびっくりしました。

1日目は、日本に帰りたいたいというホームシックと、英語の聞き取りや話したい事がうまく話せずジャミラに頼ってしまった自分に悔しくて泣いてしまいました。

2日目は昨日の悔しさからたくさん話しかけるようにしました。すると相手もわかってきて、だんだん英語がわかってきました。習慣の違いで、初めて学んだ事があります。外国人は、くしゃみをする時「Excuse me」と言います。私はびっくりしました。日本人はくしゃみをして、「すみません」と言いません。私がかくしゃみをしたとき、「気にしないで」と英語で言ってくれました。すると相手もびっくりしたのか、「日本人はくしゃみをした後、何か言いますか？」と聞かれ「日本人はくしゃみ

したあと何も言いません」と答えると、相手はとてもびっくりしていて、これが文化の違いなんだと思いました。

朝ごはんを食べた後、ソラナが「ゲームをしましょう。」と言ってきたので、アメリカで有名な、ギターゲームをしました。初めてしたので、ルールがよくわかりませんでした。しかし、だんだんしているうちにたのしくなりました。アメリカのゲームは、日本のゲームと同じくらいおもしろかったです。ギターゲームは、アメリカの歌を流しながら、リズムよくひくゲームで、私も知っている曲も流れてきました。

ゲームをした後、ジャミラとソラナと一緒にスケート場に行きました。私はスケートができるのですぐにすべる事ができました。ソラナもすぐにすべることが出来ました。ジャミラは手すりにつかまりながら何とかすべる事が出来ました。あまりの楽しさに2時間以上すべりました。お昼は、ホットドックを買いました。買った後にびっくりした事は、ケチャップをポンプみたいなので、ホットドックの上に自分でかける事にびっくりしました。ご飯を食べた後、アメリカのプリクラを撮りました。アメリカのプリクラは日本と違い落書きがなく、写真を撮っているみたいでした。

その後ショッピングに行きました。わたしは初めてアメリカでお買い物をしました。お金を払うと、小銭を渡されました。小銭の使い方が最初わかりませんでした。でもジャミラが丁寧に教えてくれました。

道を歩いていると、小さい女の子が何か食べていたので、ジャミラに聞いてみると、リンゴアメと聞き、わたしは生クリームや、チョコレートでデコレーションしているリンゴアメを初めて見ました。アメリカのおかしはとてもインパクトがあるなと思いました。

夜、天草についてのパンフレットを見せました。すると「Kami! What is this?」と天草について興味をもってくれてうれしかったです。そして箸の使い方をみんなに教えました。「難しい・・・」と少し苦戦していたけど、練習するとできるようになっていました。

3日目の朝私は日本食のおにぎりと、味噌汁を作ってあげました。私のホストマザーのお友達とその人の子供が来ていたので8人分作るのはとても大変でした。みんな「おいしい」と言ってくれてとてもうれしかったです。外国人は、日本食が好きだと言ってくれて、日本に住んでいる事を誇りに思いました。

昼にジャミラとジャミラのお友達とマリアと一緒にレゴランドに行きました。レゴランドでは、レゴアートの凄さにびっくりしました。出入り口から凄いレゴだらけでした。

初めは、船に乗りながらレゴを見ました。レゴを見てみると、3匹の子豚や、白雪姫、ジャックと豆の木、アラジンと魔法のランプ等本当にレゴでつくっているのかな、

と思うぐらいの本物の様でした。次にレゴショップに行きました。レゴショップでは、ハリーポッターや私の身長よりも倍ぐらいのハグリットのレゴが飾っていました。私は興奮して何枚も写真を撮りました。ジャミラも何枚も写真を撮りました。ハグリットに抱きつくと、ごつごつしていて、本当にレゴなのだと実感しました。

乗り物に乗るのに、待ち時間があったので、ジャミラのお友達と、日本とアメリカについてお話をしました。アメリカは16歳で車に乗る事が出来、21歳でお酒を飲む事が出来ると聞き、私はおどろきました。日本人は、18歳で車に乗り、20歳でお酒が飲む事が出来ると言うので、相手もとても驚いていました。それと、アメリカのコーラと日本のコーラは、少し味が違うと聞き、本当かなと思い普通のコーラを飲んでみると、よく分からなかったけど、ダイエットコカコーラは日本の方が甘くおいしいなと思いました。

アメリカは、日本よりも自動販売機が少なく見つけるのに大変でした。見つけてジュースの種類を見てみると、赤や青、黄色、ピンク、オレンジなどのたくさんの色のジュースがあってびっくりしました。どんな味がするのかと思い、飲んでみると普通のソーダの味がしたので、おもしろいなと思いました。お昼には、サンドイッチを食べました。アメリカのサンドイッチは、フランスパンのように硬く、とても大きくて、半分までしか食べられませんでした。

ご飯を食べた後、ドラゴンジェットコースターに乗りました。たくさんの行列がありました。すぐに乗る事が出来ました。ドラゴンジェットコースターは、一番人気がある乗り物で、とても楽しみでした。乗ってみると、最初は、レゴで作られたドラゴンや牢屋に入っている勇者や、きらきら輝いている宝石等おもしろそうだなと思っていたら、いきなりドアが開きジェットコースターが上り始めました。いよいよだなと思っていたら、急に下がりました。たくさんの人の悲鳴などが聞こえてきました。隣にいたマリアも悲鳴をあげていました。乗った後、写真が飾っているところに行きました。見ると、酷い顔の自分をみて笑いました。ジャミラ達も自分の顔を見て大爆笑していました。

夜になってきたので家に帰りました。そして、お風呂に入った後、ジャミラ達がトランプをしていて、「かみ、いっしょにしましょう！」と誘ってきたのでいっしょにしました。だんだんしているうちに、わかってきて勝った時はとても嬉しかったので、日本にかえってきたら教えたいなと思いました。トランプゲームをした後、ジャミラたちがマジックをしてくれました。最初にソラナがしてくれました。ソラナのマジックは私も出来るマジックでした。次にジャミラがしてくれました。ジャミラのマジックはとても凄くて、びっくりする私の顔を見てみんな大笑いしていました。

4日目は、久々にみんなに会いました。集合の市役所に着くと、先生が

「どうだったのホストファミリーと仲良くできた」と聞かれ、自分が体験してきた事を話しました。するとみんなも、自分が体験してきた事を話し会いました。文化の違い

いや、ご飯のことなど、たくさん話す事で自分が知らなかった事など知る事ができて良かったです。

車の中でもみんなの体験したことの話で盛り上がりました。

最初にハイキングをしました。案内係に日本人の方がいらっしまったので、アメリカについて、たくさん質問しました。するとたくさんのことを教えてくれたので、とてもたのしかったです。お昼は、Kialani Hawaiian food を食べました。アメリカの食べ物は、味が濃くて、あまり口に合いませんでした。ムーンライトビーチに着くと水着に着替えて、みんなで海の中に入りました。海の中はとてもつめたかったです。でもだんだん慣れてきてみんなですっと泳いでいました。すると、先生が「サーフィンしますよー」といったので、泳ぐのをやめ、サーフィン用のスーツを着て、サーフィンのボートに立つ練習をしました。

しばらく練習した後、海の中へボートを持ってサーフィンをみんなでしました。私は1番最後に乗る事になりました。みんなおいしいところまで波に乗っていて凄いなおもいました。いよいよ私の番になりボートに乗りました。タイミングがうまくつかめず、1回目は、直ぐに落ちました。しかし、2回目は、少しタイミングをつかむ事が出来たので、少しだけ波に乗る事ができました。

着替えた後、バーベキューの準備をしました。バーベキューと言えば、焼いた肉を焼肉のたれなどにつけて食べるのかなと思っていたけど、アメリカのバーベキューは焼いたハンバーグやソーセージをパンにはさんで食べると聞き、びっくりしました。バーベキューをする前にアメリカのポテトチップスを食べました。やっぱりサイズが大きくて、おいしかったです。

各ホストファミリーがやってきました。先生が「今こっちに来ている人が、エンシニタスの市長さんだよ」と言われ一瞬誰が市長かわかりませんでした。会ってみると、笑顔で優しそうな人でした。食べた後、歓迎会で市長さんが私たちにプレゼントを渡してくれました。プレゼントの中には、エンシニタスTシャツ、リュック、ステッカー、鉛筆などとてもいいお土産になりました。ゾイヤエミリーやジャミラ達とはなした後、なつきと、ちさきと、大輝くん、ともう一度海にいきました。カメラを持って遊んでいると、知らないアメリカ人が「写真をとってあげましょうか?」と言ってくれたのでお願いすることにしました。

夜もみんなで10時まで遊んでから、家に帰りました。のどが渴いたので冷蔵庫の中を見てみると、バケツと同じ大きさのアイスを見ました。私は初めてこんなにも大きなアイスを見てびっくりしました。

私はこの交流授業に参加できてとても良かったです。これから、たくさんの人に自分の体験してきた事を教えたいです。体験してみないと分からない事がたくさんあったので、自分は本当に幸せ者だと思いました。この経験でまだまだ英語で上手いかなかったことがあったので、もっと英語を頑張りたいと思いました。この経験を通し

て英語の先生になりたい気持ちがさらに強くなり、その夢に一步近づく事ができました。今習っている英語は絶対無駄ではないのでこれからの、英語の授業は今よりもっとたくさんのことと学んでいきたいです。父が私にアメリカについて教えてくれたのと同じ様に、私もみんなに教えて少しでも英語や海外に興味を持ってほしいです。いつか、もっと英語を話せるようになってから、もう一度みんなでアメリカへ行きたいです。

両親や先生方、友達などこれまでわたしを支えてくれた人たちに感謝したいです。



『天草市姉妹都市教育交流事業に参加して』

天草市立御所浦中学校 三年 村井 水貴



7月23日金曜日、私たち研修生は天草を飛び立ちました。出発の時は、これから出会うさまざまなことへの期待と、たくさんの不安な気持ちでいっぱいでした。行きの飛行機は期待のせい、とても長く感じました。しかし隣の外国の方と少しお話したり、時差を感じたりと貴重な体験もできました。

ロサンゼルス空港に着き、一番感じたのはアメリカの乾燥した空気です。ほんとうに今は夏だろうか、と思うほどのさわやかさだったのを覚えています。また、空港でトイレに行った時もトイレの下の隙間が大きくあいているのも衝撃でした。

車で3時間ほど移動してエンシニタスの市役所に着くと、たくさんのホストファミリーの方たちが待っていてくれました。私のホストファミリーは遅れてきましたが、待っている間に市役所の方と天草の話や、地元の御所浦の話ができてとても楽しかったです。

ホストファミリーと初めて面会した時、ホストである17歳の女の子のゾーイは出かけていていませんでした。だから、最初に会ったのはホストファザーとホストマザーです。すぐには家に帰らず、2人はアイスクリームを食べに連れて行ってくれたのですが、はじめに言葉の壁を覚えたのはその時でした。歩いているとき、たくさん話しかけてくれるのですが聞き取れないところが多々あり、会話になりませんでした。その時食べたアイスクリームはとても甘く、ボリュームがありすぎて食べるのが大変でした。そのあと駅まで、ホストのゾーイと弟のザックを迎えに行きました。ゾーイとは出発前からメールをしていましたが、初めてメールを英語で送ったあとの返事にはすごくびっくりしました。なんと返事が日本語で返ってきたのです。そのくらいゾーイは日本語が上手で、日本に詳しくて・・・はやく会いたい！！と出発前から思うほどでした。そんなゾーイとの初対面は笑いでいっぱいでした。電車から降りてきたゾーイの頭には、大好きな動物である象の顔の帽子があったのです。買って、気に入ったのでかぶって帰ってきたそうです。それに対してホストマザーが大爆笑！ほんとうに愉快的な家族だなあ、これからの生活が楽しみだなあ、と感じました。また、実際

のゾーイの日本語力は予想以上でした。日本語の授業の過程をすべて終えたのだそうです。まるで日本人のような話し方でした。

ファミリーと過ごす1日目はComic-conという、期間限定のコミックの祭典にゾーイ・ザック・アントニー（ゾーイの男友達）といきました。サンディエゴであるので電車に乗りました。電車は2階建てで、とても広かったです。Comic-conにはコスプレをした人がたくさん来ていて、その人達とたくさん記念写真を撮りました。その時に英語をたくさん使えていい勉強になりました。Comic-conで一番感じたことは「日本の文化は認められていて人気がある」ということです。たくさん日本のアニメが紹介されていたり、漢字のTシャツの人気があったりしていたからです。ゾーイのように日本語を熱心に勉強する人がたくさんいることも含め、とても嬉しく感じました。その日の夜にファミリーに日本から持ってきたお土産をわたしました。砂絵キット・扇子・ゾーイが大好きな嵐のコンサートうちわなどです。どれも喜んでくれて嬉しかったです。1番喜んでくれたのが御所浦の恐竜グッズで、翌日から使っていたので感動しました。

2日目もファミリーとすごしました。その日はサンディエゴ動物園にファミリーのみんなと行きました。途中でハンバーガーショップによったのですが、噂どおりとても大きくてびっくりしました。待ち時間に、ゾーイに貨幣価値を教えてもらい、のちに買い物をするとき大いに役に立ちました。動物園では、チケット購入の待ち時間に子供たちだけで話をしました。その時に輪ゴムでかんたんなマジックを披露すると、とても喜んでくれました。そのとき、それまであまり話さなかった弟のザックとの距離が縮んで、本当のファミリーになったようでうれしかったです。園内をゆっくり回って、最後にロープウェイに乗りました。サンディエゴの街並みが一望でき、感動しました。帰りに、メキシコ料理の店で夕食を食べました。メニューが英語で困りましたが、ゾーイが日本語に直してくれたので助かりました。メキシコ料理はとてもおいしかったです。たくさん英語を勉強して、メニューまで理解できるくらいの力をつけたいと思いました。

3日目からは研修生のみんなと一緒に過ごしました。サーフレッスンなど普段できない貴重な経験ができた3日間でした。歓迎バーベキューは、ムーンライトビーチでしました。日本とは違い、はじまりも終わりも特別にはない感じで「自由の国、アメリカ」だなあと思いました。また、私たちのために、わざわざ消防署の方たちが消防車を見せてくださいました。とても、大きく思えました。それに、私たちに消防士のヘルメットをかぶらせてくれたり、運転席に乗せてくださったりしました。とても貴重な経験ができ、うれしかったです。このように、バーベキューでは、たくさんの方と出会うことができ、嬉しく思いました。

バーベキューのあと、家で休憩して夕食のバイキングに行きました。私のホストと、伽美さん・夏綺さん・大輝くんのホストが友達だったので、一緒に行きました。アメリカのバイキングは思っていたよりもヘルシーなものが多かったです。だけど、デザートが多く、さすがだなと思いました。

4日目は、はじめにエンシニタスの図書館に行きました。最近できたばかりだそうで、とてもきれいでおしゃれでした。私たちは、そこで今度ある Japan Festival の飾り付けを依頼されました。折り紙を折ったり、和紙に文字を書いたりして飾り付けをしました。折り紙を折るとき、私のホストのゾーイははじめから、「難しいから・・・。」と言ってやろうとしませんでした。私はゾーイにも折り紙の美しさや楽しさを教えたくて、比較的簡単な奴さんを教えてあげました。すると喜んでくれました。その時私は、日本の文化を知ってもらうのはとても嬉しいことだと思いました。残念ながら、Japan Festival の時は私たちはエンシニタス市をでていて参加できませんでした。とてもいい思い出作りになりました。

その日の夜はまた、バイクの時のメンバーでボウリングに行きました。ホストの中には初めてする人もいて、店にはアジア系の人ほとんどだったのであまりアメリカではなじみがないのかなぁと思いました。とても楽しかったです。

そのあとに、ゾーイのお姉さんのケルシーがドライブに連れて行ってくれました。ケルシーは私わかりやすいように、ゆっくりと話してくれるので話しやすく、会話が弾みました。そしてケルシーは私にスペイン語で「ミカサ・エスカサ」（私のうちはあなたのうちよ。）という言葉を見せてくれました。私は、「あなたは、私たちの家族なのだからいつでも戻っておいで」と言われているようで、嬉しかったです。いつか、もう一度エンシニタスに戻ってこようと思いました。

次の日は、サンディエゴやシーポートビレッジでたくさん買い物をしました。あるお店で、店員さんが「Are you Japanese?」と聞いてきました。「Yes.」と答えると、上手な日本語で話しかけてくれました。長崎の佐世保に住んでいらっやったということでした。熊本にも来たことがあるらしく、世界は広いようで狭いんだなぁと実感しました。

そのあとは、元消防長官のお宅でお別れバーベキューをしました。この前歓迎バーベキューだったのにな、とさみしく思いました。そこで私たちはそれぞれのホストファミリーにメッセージ入りの手作りうちわを渡しました。私は、似顔絵とメッセージを書きました。とても喜んでくれてうれしかったです。そのバーベキューで、いろいろな人に支えられてこの研修ができたんだと改めて実感することができました。料理もおいしかったし、プールで遊べたりしてとても楽しかったです。

そのあと、伽美さんのホストと一緒に大貴くんのホストのセイジの家に行き、みんなでそのままスーパーマーケットに買い物に行きました。アメリカの食べ物をお土産に買うことにしてみんなで選びました。シリアルなど、とても大きくて驚きました。お菓子は比較的、辛めではなく甘いものが多かったように感じました。そのスーパーでとても驚いたことが、会計を店員さんがしてくれるのと自分でするのがあったことです。私たちは、自分で会計するほうを選びました。まだ、コインの値が難しく支払う時に時間がかかる私たちには、マイペースでできるのでうれしいシステムでした。

そしてこの日が、ホストファミリーと過ごす最後の日だったので、私は家に帰ってから書道を披露しました。家族一人一人の名前を、漢字に直して書きました。みんなが黙って見てくれたので、緊張しましたがうまく書けたと思います。最後にペットの犬のYukiの名前も書いてあげるととても喜ばれました。このとき今まで習字を続けてきてよかったなぁと改めて感じました。

書道を披露して部屋に戻ろうとすると、ファミリーが私を呼びとめました。何だろう？と思うと、ホストがプレゼントをくれました。予想外の出来事に、うれしすぎて泣いてしまいました。タツノオトシゴの飾り物やTシャツ・指輪、片方が「ベスト」もう片方が「フレンド」と書いてあるキーホルダーでした。キーホルダーはゾーイと私のおそろいです。とてもうれしくて、一生の宝ものにしようと思いました。このとき、本当に日本に帰りたくないと思いました。そして、家族みんなで記念撮影をしました。このファミリーと過ごせてとてもよかったです。みんな親切で、私のことを本当の家族のように受け入れてくれて、本当にいい人たちに出会えたことに感謝します。

エンシニタスで過ごす、とうとうお別れの日がやってきました。昨日泣いた分、今日は笑顔でお別れしようとして約束しました。ホストマザーは、私のためにわざわざ仕事の時間をずらしてお別れをしてくれました。でも、時間の都合上、お別れはホストマザーが最初でした。大好きだったホストマザーとお別れするのはとても悲しかったです。そのあとは、ホストファザーが車で市役所まで送ってくれました。市役所には、もうすでにたくさんの人が来ていて最後の別れを惜しんでいました。その時、私はゾーイから手紙をもらいました。「あとで読んでね」と言われたので、そうすることにしました。お別れの前にいろんな人にあいさつをしました。ホストファザーが「あなたの書道は美しかった」と言ってくれたのが嬉しかったです。

とうとうお別れの時、私は笑顔でさよならをしました。さみしかったけど、また帰ってこようと決意していたので自然と涙は出ませんでした。でも、車の中でゾーイの手紙を読んだときは泣いてしまいました。日本語で書かれたその手紙は優しく、これまでにない感動を覚えました。

そのあとの日程はユニバーサルスタジオでした。日本のものと似ていましたが、人気のあるキャラクターが全く違い、売ってあるグッズもほとんど違うというのが印象的でした。とても楽しかったです。

次の日は、日本に帰る日でした。飛行機の中は、行きの経験を踏まえ快適に過ごせましたが、日本に着くと、生活のリズムを崩したのかとても気分が悪くなりました。しかし、友達と話していると気分が紛れ調子が良くなりました。ホテルの近くのコンビニにより、みんな日本に帰ってきて食べたかったものを思い思いに買って食べました。久しぶりのおにぎりはおいしかったです。

8月1日、天草に着いた時は一気に現実に跳ね返された感じでした。昨日の福岡は夜中だったので感じなかった蒸し暑さがきつかったです。だけど、久しぶりに帰った

天草は居心地のよいものでした。やっぱり私は天草が好きなんだなぁと改めて思いました。

今、私はインターネットを通じてゾーイと連絡を取り合っています。とてもいい友達です。このような交流を絶やさず、いつまでもエンシニタス市の人たちとつながっていきたくらいと思います。

そして、今回の貴重な体験をさせてくださった天草市に深く御礼申し上げます。また、現地でお世話になったエンシニタス市の方々にも、心から感謝します。この経験を一生の宝ものにし、少しでも多くのことに役立てていきたいと思いました。本当にありがとうございました。



『エンシニタスで学んだ心』

天草市立本渡中学校 二年 濱本 夏綺



私が今回の事業を通して一番感じたものは『愛』です。この事業に私が参加できたのも、現地でとても楽しい生活ができたのも、全部たくさんの方からの愛があってこそだと思います。10日間という短い期間で、沢山の楽しかった事、ほんの少しの苦労も体験しました。

7月23日午前9時10分。福岡空港に向かって私達を乗せた飛行機が出発しました。今回の事業に天草市の代表として参加できたのは、たったの6人。私たちは、最初の方はとてもよそよそしかったのを覚えています。しかし、2つの飛行機を乗り継いで成田空港に着くころには、皆、打ち解けあうことができました。始めて体験する事にわくわくしたり、パスポートを提示するとき

にちょっとした優越感を感じたりもしていました。特に大きな失敗もなく国際線に乗ることができて良かったと思います。

7月23日午前1時頃、天草の姉妹都市エンシニタス市に到着しました。ここにきて私は、初めての緊張で口の中が乾いているようでした。バスを降りた瞬間、私達は歓声に包まれました。エンシニタスの人達やホストファミリーがわざわざ迎えに来てくれたのです。私のホストであるエミリー-Emily-は、オシャレでカッコいい高校生のお姉さんでした。前髪が緑とピンクに染めてあり、「さすが自由の国！」と思いました。私達6人はまず、二日間をそれぞれの家庭で自由に過ごすことになりました。いきなり異国での生活のスタートで、家に向かう車の中では少ししかエミリーと喋ることができず、少し悔しい思いをしました。

7月24日。ホストファミリーとサンディエゴの動物園に行きました。私が最初にそこへ行って思ったことは、日本とのスケールの違いでした。動物達の檻は全然檻らしくなく、まるで本当の森や湖になっているようでした。自分が森の中を歩いているような気分になれます。動物園の入場料はホストファミリーが払ってくれました。それだけでなくご飯やお土産も全部「私が払うから」と笑顔で言ってくれます。私がこの事業で『愛』を感じた一場面でもあります。初めは「私が払います」「いや、私が」…の繰り返しでした。しかし、決まって私が負けてしまいます。私は、きちんとお礼を言う事を心がけました。

7月25日。ホストファザーに海に連れて行ってもらい、カヤックをしました。実は、エミリーのお父さんは製造業に務めていますが、カヤックやダイビングなどのスポーツも大好きです。天草はトライアスロンが盛んだという話をした時には、『いつか、天草に行ってみたい』と言っていました。そんなスポーツが大好きなホストファザーにご指導をうけ、私とエミリーとホストファザーで海に出ました。海に出て、大部深いところに来たとき私は日本ではありえないものを見ました。海のと真ん中で人が1人で泳いでいるのです。ホストファザーに「鮫はいないの。あの人大丈夫?」と聞くと「フレンドリーな鮫だから大丈夫だよ」と笑っていました。本当にアメリカは自由でスケールの大きな国です。また私は、その奥にボール玉のようなものを見つけました。目を凝らしてみるとアザラシで、顔だけを水面に出してぷかぷか浮かんでいました。その前をさっきの人が泳いでいきました。なんだかとってもおかしい光景でした。

7月26日。その日は2日ぶりにみんなと再会しました。2日間は、エミリーがほとんど日本語を喋る事ができず、日本語にノータッチだった為みんなと日本語を喋るのがとても嬉しかったのを覚えています。最初は「トーレパイン」という山にハイキングに行きました。エンシニタスは海の町という感じですが、山もあります。まさに自然と触れ合うにはぴったりの場所です。高いところから見る海は最高でした。マイクが海の方を指して、「この海をまっすぐずっと行けば天草に着く」と教えてくれました。その後は、ムーンライトビーチでサーフィンをし、浜辺でエンシニタスの人たちが歓迎会を開いてくれました。歓迎会が終わった後、私たちは友達の家に向かいました。彼の家はとても大きく、家にジャグジーや、ロッククライミングやトランポリンなど色んな物が揃っていました。一日中いろんな所を歩き回って疲れた私達は、少しトランポリンで遊んだ後、そのままトランポリンに座りました。寝そべっても生憎の天候で星空は見えませんでした。まるで修学旅行の夜のように、日本人とアメリカ人みんなが3日間のことを話しました。アメリカ人も日本語で言葉をゆっくり探しながら私達にいろんな事を語ってくれました。時に笑いあり、涙ありで話がひと段落したとき、参加者の1人が溜め息交じりに「アメリカに来て、こんなに話しするとは思わなかった」と呟きました。皆同感でした。これが言葉の壁を越えるという事だったのでしょうか。皆で、星のない夜空を見ながら時間も忘れて語り合ったあの日を私は絶対に忘れません。

7月27日、28日。エンシニタスで過ごす日々は本当に楽しくて、あっという間に時間が過ぎていきました。初めてエンシニタスについた時は緊張で全然喋れなかったのに、自分でも変化が分かる程、沢山の会話をしながらサンディエゴ市内を散策しました。そして28日は、エンシニタスで過ごす最後の日。私達の為に、元消防署長が自宅でお別れパーティを開いてくださいました。最後のスピーチでは、短くはありましたが、前日から自分で一生懸命考えた感謝の気持ちを発表しました。

29日。やはり別れの日はずらかったです。ですが、前日にゾイが『明日は、泣いちゃだめ。笑ってさよならがしたい』と言ったので、約束通り笑顔で皆に手を振ることにしました。ですが、エンシニタス市の大地から離れる一歩がなかなか踏み出せま

せんでした。それからの車の旅は沈黙が続きました。しかし、エンシニタスのみんなとの別れが寂しかった私達に、笑顔くれたのもエンシニタスのみんなでした。エミリーから『帰ってから読んで』と言われ貰った手紙を読んでみたのです。そこに書かれていた感謝の言葉と一生懸命書いたらしい、崩れた日本語の文章に笑顔と元気ももらいました。5人も何らかの影響で元気を取り戻したようでした。車内では、また私達のおしゃべりが始まりました。本場ユニバーサルスタジオでも私達らしく、アメリカ最後の日を満喫することができました。

私の場合は天草に帰って、家族との再会は「久しぶり！」というような感じでした。そういえば、ホームシックにかからなかったなと思いました。ホームシックどころかエンシニタスの人たちが恋しくて、アメリカシックにかかったようです。帰ってみて楽しい日々を思い出し、まるで夢のような10日間だったなと思いました。

アメリカでの生活では、沢山の楽しいことと同様に発見したこと、驚いたことが2つあります。1つ目は、アメリカの食文化についてです。エンシニタスの人たちは非常に良く私達と接してくれましたし、いろんな所に連れて行ってもくれました。日本と変わらない温かい国じゃないか、と思いました。1つだけ大きく異なるのが食文化だったのです。エミリー宅では、特に豪華な料理を作る事もなく、いつもの食事に私も混ぜてもらおうような感じでした。日本のように、腕を振るった料理でお客様扱いされることも無かったので、逆にそれが私をすぐに彼らの生活に溶け込ませてくれたのかなと考えました。ただし、味はあまり期待しないほうが良いかな…と思います。また料理の量も多いのできちんと食べきれないときは遠慮せずに言う事が大切になってきます。

2つ目は、小さなことですが自分にとって大きな経験になったことです。それは『ハグ』についてです。日本でハグと聞くと少し驚きますが、アメリカでは初対面の挨拶や別れの挨拶、家を出るときなどに良く使われます。その話を聞いたときはさすがアメリカだなーと思う程度でしたが、いざ自分のことになってみると緊張します。案の定、初めてエミリー家族に会った日は何もませんでした。アメリカに来て数日はもうそんな事を忘れていましたが、エンシニタスを去る日の前日になって思い出しました。心配になって、夜に電子辞書で『別れの挨拶』という項目を調べていたところ「アメリカではなんでも思い切ってやるのが大切、ハグも自分がしたいという態度を見せれば相手もきちんとやってくれるはず」と書いてありました。別れの朝、私は最後まで車に乗り込まずエミリーと喋っていました。いよいよ出発だという時、私が「エミリー」と彼女を呼ぶとしっかりとハグをしてくれたのです。アメリカでは何でも、自分の意思を示すことが大切だと改めて感じました。きちんと私なりの意志を示せたからこそ、楽しい10日間になったのだと思います。

思えば、エンシニタスへの一歩は自分で必死に掴んだものでした。私の学校は天草市内で一番生徒数が多く、校内選考も沢山の人が応募しました。その中で、3年生にも負けることなく市の代表に選ばれた時点で、私の幸せは始まっていたんだと思います。そして、最初に書いたように私は沢山の『愛』に包まれて10日間を過ごしまし

た。これから私がその愛に応えるためには、私の学校、天草、日本の為に動けるような人間にならないといけないと思っています。エンシニタスで学んだありがとうの心、思い切りの精神、他者を無条件に愛すること、それと何かを心から楽しむことをずっと忘れずに過ごしていけば、きっと私を支えてくださった皆さんに恩返しができるはずです。また、10 日間で出来た友情をこれからも大事にしていこうと思っています。天草に帰ってから既に、私とエミリー、エンシニタスでできた友達とのメールのやりとりは始まっています。一生その繋がりを保ち続け、またいつかはエンシニタスへ行きみんなに会いに行きたいです。

私を応援してくださったみなさん、天草市の職員の人達、エンシニタスの人達、この事業に行きたくても行けなかった人達、そして私の我が儘を快く許してくれた両親に感謝をして、これからは誰かの為になるような生き方をしていきたいと思います。



『一生の思い出となったエンシニタス』

天草市立稜南中学校 三年 山川 千咲



私は、天草市教育交流事業の研修生として、アメリカ合衆国カリフォルニア州にあるエンシニタス市に行きました。この市はトライアスロンをきっかけに天草市と姉妹都市になり1年おきに研修生が行き来する交流事業を行なっています。

今年、天草市から選ばれた研修生6人が、エンシニタス市に行くことになり、その中の一人として参加することができました。「絶対に、いい経験になるよ。」と、たくさんの方が応援してくれました。選ばれた時も、事前説明会の時も、嬉しいというより実感がわかず「本当に行くのかなあ」という気持ちでしたが、準備をしたり、ホストファミリーへのお土産を買ったりするうちにワクワクしてきて「早く行きたい!」という気持ちになりました。それと同時に、きちんと会話できるだろうか、ホストファミリーはどんな人達なんだろうなど不安もでてきました。そんな気持ちを抱くなか、7月23日の出発の日がやってきました。研修生の家族の方や市役所の方達に見送られ、天草空港を出発し、福岡空港、成田空港、そしてロサンゼルス空港に着きました。「山が無くて平地で、すごく広い!」が第一印象でした。

入国手続きでは、顔写真を撮り指紋までとりました。その時「どこに行くの?」「目的は?」など聞かれましたが、はっきりと答えることが出来ませんでした。

エンシニタス市に着いて、ホストファミリーのお母さん「マヤラ」が笑顔で出迎えてくれました。初めのうちは何を話していいのかわからず、英語も聞きとれなかったので、うまく話すことが出来ませんでした。そんな私をマヤラは優しく受け入れ、私にわかるように、ゆっくり話してくれました。

その日の夕食は、石橋先生と先生のホストファミリーの方と一緒にハンバーガーを食べました。そのハンバーガーショップは、パンから具材、ソースまで全部を自分で選ぶ形で、メニューが全部英語で全くわからなかった私は、石橋先生に助けを求めましたが結局どれがいいかわからず適当に選び、美味しくもないハンバーガーになってしまいました。このような失敗でも、私にとっては大切な思い出となりました。ハンバーガーを食べながら、先生達は英語で楽しそうにおしゃべりをされていました。私

には全くわからず、とても悔しくなりました。先生は「大丈夫、慣れてくるよ。」と言って下さいましたが、私はこの研修で自分から積極的に話す事を目標としていたので、「もっと英語を聞き取れるようになりたい」「自分の事を知ってほしい」「もっとたくさん話したい」と思い、電子辞書などを使って、一生懸命頑張りました。単語がわからなかったり、聞き取れないこともありましたが、そのうちだんだん慣れてきて会話が増えていったので、とても嬉しかったです。

エンシニタス市には坂が多く、マヤラの家は住宅街の中の坂の上にありました。どの家も新築のようで、とても大きかったので驚きました。また、宗教が仏教で、家には小さな大仏様の置物があり、夜にお父さんのポールがお経を唱えているのを何度か見た時も驚きました。私の部屋は長女の「ウィドニー」の部屋で、きれいでベッドがダブルベッドの広い部屋だったので、私にはとてももったいないと思いました。オルガン、ギターなどの楽器があり、庭は広く「アラ」という犬がいました。とても可愛くて、暇な時は一緒に遊んだりしました。広い庭で昼食を食べたり、ゆっくりくつろいでおしゃべりをしたり、とても気持ち良かったです。

お風呂とトイレと洗面台が一つの部屋で、お風呂だけがカーテンで仕切られているだけなので最初は落ち着きませんでした。またお風呂でびっくりしたのが、アメリカの人は夜にお風呂に入らず、朝、入るという事です。

エンシニタス市の気候は夏でもとても涼しく、昼間は外にいるのが心地よく、夜は寒いくらいでした。ホストファミリーのマヤラは私の為にとたくさんの事をしてくれました。例えば色々な所に連れて行ってくれました。

「レゴランド」には、レゴブロックで造られた巨大アートがあり、たくさんの乗り物もあって遊園地みたいでした。一緒に行ったのはマヤラの弟の「サン」と甥っ子の「アイザック」でした。5歳の男の子で、とても可愛く、ジェットコースターが大好きな元気な子でした。私は小さな子供が大好きで、一緒に遊んでいたら自然と仲良くなり、ずっと手をつないで歩いていました。言葉が通じなくても気持ちは伝えることができるんだと嬉しく思いました。私が一番楽しかった思い出の「レゴランド」で、まだまだ遊びたいと思いました。

他にもマヤラは、私が食べたい物を買ってくれたり、買い物がしたいと言ったら連れて行ってくれたり、プレゼントを頂いたり本当にうれしかったです。家族のように接してくれて本当に感謝しています。

あっという間に2日間が過ぎてしまいました。3日目には研修生みんなと合流し、トーレパインビーチを散策した後、ムーンライトビーチでサーフィンをしました。

「海に入るなんて絶対寒い」というような気温でしたが、たくさんの人が海で遊び、小さい子までがサーフィンをしていて驚きました。私達も意を決して海に入りましたが、水の冷たさにはなかなか慣れませんでした。でもしばらくすると、波が高く、流されるような感覚にはまり、いつの間にか「キャーキャー」騒ぎながら楽しんでいま

した。サーフィンを習い、やってみましたが立ってすぐ沈んでしまいました。でも初めてのサーフィンが出来て、とても満足でした。それからバーベキューをしました。私達の為に消防署の人が来て消防車に乗せてくださいました。消防士さんの体の大きさにとても驚き、記念撮影をしてもらいました。また、市長さんと初対面しました。市長さんは私達をととても歓迎してくださり、エンシニタス市のリュックやTシャツなど、たくさんのプレゼントを頂きました。

バーベキューで、他の研修生のホストファミリーと交流して、たくさんの人と仲良くなりとても楽しかったです。その日の夜は、マヤラの子供「マヤ」と初めて会いました。この日はマヤの14歳の誕生日で、ポールはシェフのようにきれいに盛り付けた「もちアイスとフルーツのデザート」を作って、みんなでお祝いしました。私も日本から持ってきたお土産をプレゼントしました。初めて会って少し緊張しましたが、同い年の私達はすぐに仲良くなり、二人で遅くまでおしゃべりを楽しみました。ですが、同い年のマヤはピアスをしたり、カラーコンタクトをしたりと、とてもオシャレで大人っぽくて中学生とは思えませんでした。アメリカの人達から見ると、私は小学生くらいに見えたと思います。これも文化の違いだと思いました。

マヤとの思い出は、一緒に野球を観に行ったことです。日本の野球場にも行ったことがない私は、本場アメリカのメジャーリーグを観て、とても驚きました。球場に入るときには持ち物検査があり、飲み物は持ち込み禁止など厳しいチェックがありました。中に入るとすごく広い球場が見え、近くにホットドッグやポップコーン、ジュースなどが自由にもらえるような場所があり、それを持って座席に着きました。そこでびっくりしたのが、座席の下にたくさんのゴミが置いてあったことです。全部の座席の下がゴミだらけでした。みんな何も気にせず、逆にピーナッツのからを普通に捨てていました。こんな事日本では考えられないなと思いました。

この他にも日本との文化の違いなど、たくさんの発見をすることができ、この事業に参加できて本当に良かったと思います。実際に見たり体験しないとわからないことがたくさんありました。最初は自信がなく、うまくできなかった会話も、ジェスチャーや電子辞書を使うなどして自分から話しかけたり、思ったことを言えるようになったりして嬉しかったです。英語の聞き取りや伝え方など少しは上達できたと思います。もっと英語を勉強して、たくさん話せるようになりたいです。

今も時々ですが、ホストファミリーとメールのやりとりをしています。これからも続けていき、この交流を大切にしたいです。そして私が研修で学んだ多くのことをたくさんの人達に伝えて、この研修に携わって下さった方たちに恩返しできたらいいなと思っています。お世話になった天草市、エンシニタス市の方々と、支えてくださった方々に本当に感謝しています。この研修は一生の宝物となりました。

このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

『天草市姉妹都市教育交流を通して』

天草市立本渡中学校 教諭 石橋 令菜



はじめに

事前説明会で初めて6名の生徒と対面した。事前市長訪問で、それぞれの研修の目的、抱負を聞き、この研修がすべての生徒にとってかけがえのない経験になるよう支援することが私の使命であると感じた。

あっという間に出発の日が迫り、いざ飛行機に乗ると、これから起こることにわくわくしていた。いざエンシニタス市につくと、“Welcome to Encinitas!”という手作りの看板とホストファミリーや市役所の方々に温かく迎えられた。私たちの到着を心待ちにしてくださった様子が伝わり、うれしさでいっぱいになった。素晴らしい方々に支えられながら、想像以上にこの研修は、かけがえのないものになった。

エンシニタス（エンシニタス）市について

サンディエゴから25マイル（約42km）北にエンシニタス市は位置する。およそ60,000人が暮らす都市である。素晴らしいビーチや公園に囲まれ、穏やかな市であった。

直面している問題は、水不足である。年間を通じて、ほとんど雨がふらないため、非常に乾燥している。スプリンクラーの水も、まいてよい時間が決まっており、住民全員が協力しなければならない。植物も水があまり必要ないものばかりで、日本とは違ったものが多かった。

以前エンシニタス市では、観賞用の花栽培を多く行っていたそうだ。しかし、数多くあったビニールハウスも、水不足のために閉鎖を余儀なくされたそうだ。今残っているのはわずか1～2カ所だけだという。すでに栽培をやめたビニールハウスの中に残されている花をみると何とも言えない気持ちになった。さらに貯水しているラグーンを見学したが、山肌に以前水が貯水されていたラインが残っていた。2メートルほど水が蒸発してしまった様子がかげえ、乾季が深刻であること改めてわかった。

学校においても、資金問題を抱えているようだ。例年、訪問をする時期にはサマースクールがっているのだが、今年は資金不足のため、サマースクールは開催されていなかった。

気候は曇りがほとんどで、華氏 68° F (約 20°C) ~80° F (約 28°C) 程度であった。平均の最高気温は 72° F (約 22°C) である。異常気象だと、出会う方々が口々に言っていた。そのため、毎日長袖が不可欠であった。時に日が差すが、日差しは非常に強く、さらに乾燥する。湿度がほとんどないため、汗をかくことがなかった。

地球環境保全のための取り組み

ロサンゼルス空港についてまず目にとまったのが、駐車場での電気自動車充電施設であった。駐車場の一角に、8台ほど充電器があり、そこで電気自動車に充電をしていた。

また、リサイクル可能なものについては、底に番号が書いてあり、指定の番号であったらリサイクル可能だという。ゴミの分別は一般ゴミとリサイクルゴミの2種類である。

フリーウェイでは、カープールというレーンが設けられており、1台の車に2名以上乗り合わせている場合のみの専用車線である。渋滞時はその車線が空いていることが多く、乗り合わせている場合は利益を被ることができる。

ロサンゼルスで宿泊したホテルでは、シーツやタオルは連泊する場合は同じ物を使用することを勧め、アメニティーに関しても、「地球環境保全のため、使用は最低限にしてください」とのノートが添えられていた。

姉妹都市について

この都市交流を始めた方（リクシェー氏）に会うことができた。この都市交流のきっかけはトライアスロンだったそうだ。リクシェー氏は以前、天草に在住していたこともあり、天草のことを大切に思っているとのことだった。また、天草とエンシニタス合同でトライアスロンチームを作り、参加していることも聞いた。

ホストマザーから合同チームで参加した時の様子を写真で見せてもらった。その当時のエンシニタス市の市長もサイクリング部門で参加をしていた。この都市交流のきっかけが今でも続いていることがわかり、大変うれしく思った。

市役所のいたるところに“天草”の文字を見かけた。例年の都市交流での色紙や、日本のものも飾られており、姉妹都市天草を大切にしてくださっているのが伝わった。

以前都市交流で天草に来た方々とも接する機会があり、その時の様子をうれしそうに語っていた。今でも何人も連絡を取り合っていて、交流が盛んに行われていることがわかった。

また、帰るときには天草にいる友だちにプレゼントを渡してほしいと、何個もお土産を預かった。このように、この交流が昔から続いており、今でもお互いを大切にしている素晴らしいプログラムということに改めて実感した。

英語について

ホストファミリーを始め、滞在に関わる人の中には日本語を全く話さない人の方が多い。そのため、コミュニケーションにおいて英語は必須である。特に、自分の意思をきちんと伝えることが大切である。でなければ「何を考えているかわからない」「滞在が面白くないのでは」と周りの方々に心配をさせてしまう。たとえ文法的に間違っても、伝えようとする姿勢には必ず答えてくれる。失敗を恐れず、どんどん自分からコミュニケーションをとることが求められる。

生徒は、始めのうちは話しかけられても Yes/ No だけで答えていたが、徐々に理由を付け加えたり、自分から質問をしたり、コミュニケーションを自分から取ろうとする姿勢が見られ、日に日に見違えるように成長する姿が見られた。

滞在中、生徒は特にリスニング力を育成したようだ。初めのうちは何をいっているのかさっぱり分からなかった様子だが、次第に現地の英語に慣れていたように思う。徐々に通訳なしでも何を言っているかがわかってきたようだ。しかし、何を言っているかを理解しても、どう返答してよいか最大の困難だったようだ。辞書を片手にコミュニケーションをしていたが、伝えたいことをきちんと伝えられない悔しさがあつたようだ。しかし、この悔しさが今後の英語学習への動機づけになることであろう。

世界中の人とコミュニケーションを可能にするツールは英語である。英語を話すことで色々な人とコミュニケーションをできることは財産になる。身をもって体験した生徒たちは今後英語を学習する態度が変わってくるであろう。

文化について

食文化の違いは特に印象深かったようだ。朝食は主にシリアル、フルーツ、ヨーグルト等であった。昼食は多くはハンバーガーとフライドポテトで、日本でいうラージサイズのジュースがついてくる。夕食はメキシコ料理やバーベキュー、ステーキ等が主であった。

ハンバーガーは中に大きなハンバーグが入っており、上にチーズがたっぷりかけてあった。中には玉ねぎやピクルスが挟まっており、とてもかぶりつけるような大きさ

ではなかった。また、バーベキューもハンバーグとソーセージを焼き、パンには自分でケチャップとマスタードを自分でつけるというものだった。生徒は、これまでの自分のバーベキューのイメージと異なっており、驚いていた様子だった。また、食事と食事の間に、チップスやクッキーなどの間食をする習慣があった。学校でも、休み時間にスナック（チョコレートバー、ポテトチップス、リンゴ等）を食べるという。

日本食も浸透していた。寿司を食べる機会があったが、マグロの刺身が唐辛子と野菜と一緒に海苔で巻かれているもので、これまでの寿司のイメージとは異なっていた。周りの人も箸を上手に使い、緑茶と味噌汁と共に寿司を楽しんでいた。

「いただきます」「ごちそうさま」を言う習慣も見られなかった。準備ができた順に食べ、食後も食べ終わった順に片づけを始めた。

家では、靴を履いたままで、バスタブはあるもののお湯をためて入るという習慣はない。水を出す蛇口もプッシュ式で空港等では自動で止まる蛇口が利用されており、節水に力を入れていた。トイレにおいても犯罪防止や、使用状況を把握するためドアの上と下がそれぞれ約10センチずつあいていた。

今の季節の人気のある活動はスケートボードやサーフィンだという。サーフィンのレッスンを受けたが、私たちにはなじみがないためとても難しかった。海で見かけたのが、小学生や中学生のライフセーバーである。訓練の真っ最中で、海や人命救助等について学ぶという。

出会った方々について

出会う方々すべてが、友好的であった。市長に出会うときは、私たちはサーフィンレッスンを終えた後で、水着のままであった。アロハシャツに短パンの方が挨拶をされ、その方が市長であった。覚悟はしていたものの、あまりにラフな出会いに戸惑ってしまった。しかし、「This is our way.」（これが私たちのやり方よ）と市長がおっしゃるように、それが現地のやり方なのだ。

市長との対面やお別れ会等でもフォーマルなという場面がなかった。

別れの時に市長からバッチをいただいた。誰もがもらえるものではなく、特別な人に与えられ、それがあればいつでもエンシニタスに戻ってきて良いとおっしゃっていた。私たちは第二の故郷があるように感じ、非常にうれしく思った。

ホームステイ中は、それぞれの家庭で活動をした。本当に私を家族みたいに接してくれ、ありがたかった。家族の一員として私たちを迎えてくださったホストファミリーに心から感謝したい。

お別れ会では、プールやジャグジーがある家に招かれ、私たちに特別にバーベキューをふるまってくれた。そこには市長を始め、ホストファミリー、以前このプログラムに参加した人、今回手伝ってくれた方々等多くの方に参加いただいた。

別れ際に、抱き合い、これまでの思い出が一気によみがえったのか、生徒の多くは涙を流していた。出会いがあり、別れがあり、この短い期間で色々な感情が入り混じったであろう。この研修で出会った方々を大切に、メールや手紙などを通じて、コミュニケーションを続けてほしいと思う。

生徒の成長について

中学生で、親元を離れ、異国で滞在をするということがどれほど大変か、私の想像以上であろう。しかし、苦勞もあった分、この経験が今後どう生徒の将来に影響をすることがとても楽しみである。感心したことは、生徒は非常に受容的であったということだ。国が違えば、言葉が違い、習慣が違い、文化が違う。私たちは自分の生まれ育った文化を通して他を見るため、良い・悪いで判断しがちである。しかし、忘れてはいけないのは、その違いを喜び合い、受け入れることではなかろうか。生徒は全員、違いをそのまま受け入れ、認めており、今後ますます国際感覚豊かな人材になるであろう。生徒が五感を使って、感じたことすべてが今後の生活に影響をしてくるであろう。着いた直後、各ホームステイ先にわかれたため、生徒の中には異国の地でさみしくてホームシックになったり、伝えたいことが伝えられずストレスを感じたり、つらいときもあったようだ。しかし帰る頃には、別れたくないと言って別れを惜しむ姿が見られ、短期間で十分、現地の生活に適應したようだ。

始めは私の後をついてきていただけであったが、日を追って自主的に行動できるようになっていた。ゲートはどこに行くか、搭乗時間は何時で待合室には何時までに入るか、入国審査等、海外に行くために必要な力が自然についていたようだ。帰りは、ほとんど私の案内なしで生徒が行動できていた。また、自分で店に行き、品物を注文し、お金を払い、お釣りをもらうこともできるようになっていた。この研修で自信をつけ、将来は一人で外国に行く生徒もいるのではなかろうか。

ここでの経験を多くの人に共有し、私たちの姉妹都市についてより親しみをもち、交流をできる懸け橋になるような存在になってもらいたい。

おわりに

これは、私の目で見て体験した報告書である。エンシニタス市は、メキシコ人を始め多くの移民がいて、日々変化している都市であると思う。一般化はできないし、これがすべてではないことを確認しておきたい。

この研修は実り多いものとなった。姉妹都市について学ぶだけでなく、これまでの自分の視野も広がったように思う。私自身もこの研修での学びをできる限り多くの人に伝え、姉妹都市エンシニタスについて知ってもらうことがこの経験をよりよいものにするのだと思う。このような機会を与えてくださり、様々な場面で天草市、天草市教育委員会の方々に深く感謝を申し上げたい。

Reina Ishibashi
English teacher
Hondo Junior High School
Amakusa

Young people International Exchange Project

Report on the student delegation to Encinitas, sister city of Amakusa

Introduction

At the meeting for the exchange delegation, I met the 6 students who came from different junior high school and met for the very first time. We shared the purpose of this project in front of the mayor of Amakusa city and this made me sure that my duty was to make this project as memorable as possible for all the students.

I was so excited about this project on my way to Encinitas. After arriving at the city hall of Encinitas, we were so welcomed. The people including the host families were waiting for us with the large handmade sign that said "Welcome to Encinitas!!" . I was grateful Thank you for the warm and generous people' s help, as this project held great value.

About Encinitas

Located along six miles of Pacific coastline in northern San Diego County, Encinitas city is surrounded by many beautiful coastal beaches, cliffs, parks, and many other kinds of nature. Encinitas has an approximate population of 60,000.

They are facing a serious water shortage. It seldom rains through the year, very dry at all times. There is a certain time that the people are allowed to use the sprinklers for their garden. There are many significant plants around the city. I heard that Encinitas is the flower growing capital. I could see many flower growing hot houses, but some of them no longer grow the flowers because of the drought.

Another curious thing was when I was passing by the mountains, I could see the line which shows the water line it used to be filled up by then. It tells me that about 2 meters water had evaporated.

Moreover, there is a budget problem at public schools. I was expecting to visit some schools but because of the budget problem, there are no schools that have summer school.

The weather was cloudy most of the time while we were there and the temperature was around 68F to 80F. Long sleeve shirts were needed. The sunshine hardly could be seen but once the sun came out it was so strong and compared to the sun in Japan. Also there is less humidity so we didn't sweat.

Environmental policies

At the Los Angeles airport, we saw the parking spot for the Electric cars. There was some chargers for them.

To minimize waste, there are some tips for the residents. The City of Encinitas will manage solid waste with the ultimate goal of achieving a zero-waste future. Waste shall be managed according to the following priorities: 1.) Prevent, 2.) Reduce, 3.) Reuse, 4.) Recycle, and 5.) Proper Disposal.

In Encinitas, the government encouraging local transport and provides information on their facilities as well as encourage the car share. At the freeway, there is a lane called "carpool lane". Along the very right side and only for cars which have more than 2 people. Most of the time that lane doesn't have traffic so if we share cars, not only we can comfortably avoid the traffic, but also we can reduce air pollution.

Other device can be found at the hotel. They re-use the towels and the sheets on guest request.

Sister city

I had a chance to meet Mr. Rickshea. He is the person who started this project. He told me about his life in Amakusa. He used to teach at a private English school in Amakusa. The triathlon was the prompt of this project. Even now, there is a team shared by Amakusa city and Encinitas.

My host mother(Ms. Handson) showed me some pictures taken at the triathlon few years ago. Surprisingly the mayor took part in the bicycle portion at that time. Still now, Amakusa and Encinitas have wonderful relations.

At the city hall, we can see many Amakusa goods in many places. I found that the people in Encinitas are so kind to their sister city.

Additionally I met a lot of people who were involved in this project. Some of them came to Amakusa as an exchange delegation and they made lots of friends there. Through e- mail, they still keep in touch. I was so happy to hear that many people between the two cities have a good relationship.

English ability

People who we met including host homilies don' t speak Japanese. English is the only language of communication. Especially in English we were asked to tell what we think. Otherwise people will think “he or she is not having fun” or “ we are not sure that he or she is thinking.” But I found all the people who we met were kind enough to wait until we were ready to speak English. No matter what mistakes we made, they were happy to communicate with us.

At the beginning, the students only responded by using yes and no. As the time went by, some of them tried to ask as many questions as they could. I think the students improved their listening ability. At first, I translate into Japanese but later they tried to guess what the speakers said. At the end, without translation, some of them understand what was said. The hardest point was even if the students understood what the speaker said they had problems to responding. Using the electric dictionary was a big help. However, sometimes they struggle to tell exactly what they thought

I believe this experience will be the great motivation for them to study English more. English is the essential tool for communication. Though English we can communicate with many other people. The students realize how fun to communication is.

Cultural differences

The most amazing thing was the food culture. At breakfast, we had cereal, fruit, yogurt, and so on. At lunch, I had hamburgers and fries most of the

time, for dinner we had Mexican food or barbeque with steak or hamburgers. The portion size of everything was large to us.

My favorite was the hamburgers. We could choose the toppings we liked such as cheese, onions, and pickles. I couldn't bite the hamburgers because it was so huge. The students were excited because they could put whatever toppings they wanted, and it seemed like a real barbeque. Also, between meals, there were many snacks like chips and cookies. We were told the students even eat snacks during breaks at school.

Japanese food is common. We had a chance to eat sushi, but the tuna was spicy and eaten with vegetables, so it was different than sushi in Japan. People around us could use chopsticks well, and ate sushi with green tea and miso soup.

There were no words said at the beginning or at the end of meals, such as *ittadakimasu* and *gochisousama*. After preparation was done we ate, and after we ate the clean up began.

In the houses, we entered with our shoes on. The houses had bathtubs, but there was no customs of taking baths. Also, the water faucets were push type because of the water shortage. In the public restrooms, I was surprised that there was space above and below the doors, about ten inches.

The activities for the season were surfing and skateboarding learning lifeguarding skills. It taught them about the ocean and how to save people.

Ways of meeting

Their way of greeting us was very friendly. When we met the mayor, we had just finished our surf lesson and still in our bathing suits. The mayor wearing an aloha shirt and shorts. It was expected but I was surprised to meet the mayor so informally. He said "this is our way", so they seem to be very laidback there.

Even our parting meeting with the mayor was informal. We received a pin from the mayor that is special. It shows a picture of Encinitas and not everyone can receive one. If we have that to look at, then we can remember our trip to Encinitas.

At my home stay, I took part in many kind of housekeeping. I felt like it was really my house, and I was moved by their kindness.

At our leaving party, which was held at a house with a pool and a Jacuzzi, they had a special barbeque for us. It was there that first the mayor, then the host families, then those who took part in the program spoke about their feelings and thoughts about the experiences. From when we met and when we parted, there were many memories made, and the students were crying in the end. Even though it was a short time, we were very impressed with the program. This experience was very important to us, and I think that all of us would like to continue communication through letters and email.

About the students growth

The junior high school students from their parents, and staying a foreign country is hard beyond my understanding. Also, there are things they dislike, but after this experience, the student's future is changed and they had an enjoyable time.

Amazingly, the students were very receptive to the differences. If the country is different from the culture that we were born and raised in, we can see the good and bad points. Also, we can not forget that these differences also bring happiness. All of the students realized the differences and afterward will become more internationalized.

The students use their five senses and the things they felt will influence their lifestyle from now on. When they arrived they parted from their host families, the students became lonely and homesick or could not convey the words they wanted, causing stress and had other differences. Furthermore, when the time to return home came, they did not want to go because they had a great time. Although the time was short, it was enough to see another lifestyle and experience it.

When we first arrived, the students followed me everywhere, but as time passes they become more independent. At the airport, they had to find the gate on their own and by the correct time, with my help.

On the way home, the students were able to do their own and paid on their own. From this experience, the students will be able to go to a foreign country on their own in the future.

In conclusion

This is my report from my experiences. In Encinitas, it was the first time I had seen many Mexican people, and everyday this city seems to change. Generalizations cannot be made, and I was not able to see everything.

This program was very valuable to me. As a sister city, it is not only about learning , but also widening our horizons. As for me, I would like to tell many people about my experience, and tell them about our sister city of Encinitas and about the amazing time I had there. I am thankful I had the chance to go, and I am grateful to the city of Amakusa and the Amakusa Board of Education.

